

第4回岡山市場未来会議
議 事 要 旨

日時：令和7年8月22日（金）13:30～15:00

場所：岡山市勤労者福祉センター 4階 大会議室

出席者：

【委員】

学識経験者	3名
卸売業者	5名
仲卸業者	4名
場内関係者	1名
出荷団体	2名
小売事業者	1名
金融事業者	1名
消費者	2名
岡山市	1名

【事務局】

岡山市 市場事業部

三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社

議事要旨：

(1) 「将来構想（案）」について

委員から特段の意見なし。「将来構想（案）」は原案のとおり承認。

(2) その他

■ 施設・設備の今後について

発言者 A 市場において青果・水産・花きが抱えている課題は近いものであると感じている。大きな方向性として「共有化」という考え方は重要ではないか。

発言者 B 検討を進めるため、スピード感を持って具体的なゾーニングの案を示してほしい。老朽化は深刻であり、すぐにでも機能が止まってしまうリスクを抱えた設備もある。

発言者 C 最近の大雨被害を見ると、防災の観点も含めて立地の比較検討を行うべきではないか。

発言者 D 市場としての利用は午前のみで午後は活用されていない。午前は市場機能として使い、午後は市民に開かれるように機能を切り分けた 2 層構造の使い方を検討しても良いのではないか。

発言者 E これから先の 10 年間は、これまでの 30 年間くらいの変化があるのではないかと考えている。スピード感を持って時代を先取りした検討を進めていかなければ、10 年後にはまた時代遅れとなってしまう可能性がある。

■ 身近なまちづくり拠点としての役割について

発言者 F 農園や陸上養殖施設など、農業や漁業に触れられる機能は市場にあってもよいのではないか。

発言者 A 世間でもコメの問題をはじめとする食への関心が高まっている。市民県民の皆さんから食のありがたみを感じてもらえるようなアピールも重要ではないか。

発言者 G 食に関する体験施設の設置など、働く人と消費者双方が楽しめる環境が整備できるとよいのではないか。

発言者 H 市場における課題は市民には理解されていない傾向がある。「身近なまちづくり拠点」として市場がどのような役割を果たすかについても今後しっかりと議論することで、市民からも関心の集まる検討になっていくのではないか。

発言者 I 今後の検討にあたっては、卸売市場としてのコアの機能と、まちづくり拠点や市民の集まる場所としての機能を一緒くたにして議論すると、市場として本来果たさなければならない卸売機能を見失ってしまう可能性もある。ある程度切り分けてそれぞれの最適な形を検討していけるとよいのではないか。

■ 地場×広域の総合流通拠点としての役割について

発言者 J 最近の猛暑で海の水温も上がり、海苔・牡蠣の養殖や、地元の魚介が捕れないと漁船漁業にも影響が既に出ているという話を聞いている。原因は様々であるが、これから市場に出荷できる商品をしっかり確保していくという観点でも、産地としては引き続き尽力していきたい。

発言者 K 出荷団体としても様々な老朽化した施設を抱えている。地産地消を目指し、岡山市場と連携して機能構築を進めていきたい。

発言者 G 消費者のニーズを把握し、商品の加工機能を強化できれば、出荷先の手間を減らし、量販店や飲食店などの人手不足対策にも貢献できるのではないか。

発言者 L 小規模小売店の買参人が減少し、量販店やスーパーが主な顧客となっている。花きの場合、分荷や配送など、市場以外の業務にも適切にリソースを割き、サービスを向上することが重要ではないか。

発言者 M 「それぞれの役割を果たし、互いに連携していくことにより、効果的・効率的な市場運営・施設整備に取り組む」という点は重要であると感じている。量販店としては、荷受をはじめ、岡山市場の力を借りながら、これからも連携していきたい。

発言者 N 国際化やアジアのハブといった、よりグローバルな視点も加えて岡山市場らしさを創造できるとよいのではないか。

■ 持続的な市場経営の実現について

発言者 O 後継者不足が深刻な状況にある中で、これから先の経営支援策について示していただければ、安心感を持って事業継続しやすいのではないか。

発言者 P 金融業界としても引き続き支援を継続していきたい。また、DX や省力化など支援ができる領域があると考えている。

■ 再整備に係るコスト負担について

発言者 D 他市場の再整備においても資材高騰や工期延長による計画の大幅な変更等が生じている。場内事業者としては、今後上げるべき収益の目標を立てるためにも、どの程度のコストがかかり、使用料にどの程度転嫁されるのかをスピード感を持って示していただきたい。

発言者 Q くれぐれも事業の採算性を損なわない範囲での賃料設定をお願いしたい。

■ 短期的な機能整備・修繕について

発言者 D 今年度中にも対応しなければならない緊急度の高い修繕（卸売市場のシャッター、雨漏りや加工施設の衛生環境等）もある。再整備の検討と並行し、着実に進めていく必要がある。

発言者 F 再整備と修繕を並行して検討することを考えると、事業部には危機感を共有してもらい、スピード感を持って対応してほしい。取組方針の中にはハード面についての記載が少ない。短いスパンの中で着実にどのように進めていくか、その道筋の議論を継続していきたい。

発言者 B 冷蔵庫棟の躯体の防熱やコンプレッサーの部品など、今すぐにでも対応が必要なところも多い。冷蔵倉庫以外にも、高圧電力や高圧ガスなど、早急に対応しなければ危険なものもある。将来構想を踏まえ、一部先行して改修するなど、早急の対応が必要ではないか。

発言者 E 例えば仲買の作業が雨の中で行われている状況など、市民に対して胸を張って説明できないような状況に対しては、すぐにでも手を打たなければならない。

■ 今後の検討の進め方について

発言者 I スピード感を持ってという声が多い。この勢いを止めることなく検討を進めていただき、また、その過程で将来構想が道しるべとなることを期待したい。

発言者 N 将来構想は作って終わりではなく、随時見直し、その時々で議論を踏まえたものとし続けていけるようチェックしていく機能が必要ではないか。

発言者 I 将来構想（案）でも「官民連携」から、「官と民がそれぞれの役割を果たし」と表現が変更された。連携の前にそれぞれの役割を認識することが重要であり、官と民で引き続き議論を深めていただきたい。

- 発言者 R スピード感を持ってという声が多かった。市場管理者がイニシアティブを取りながら、一刻も早くプロジェクトチームを立ち上げ、若い人や女性の参加促進もしながら議論を加速していただきたい。
- 発言者 A これからの若い世代にも課題認識を伝え、一緒に考えてもらうことが重要ではないか。
- 発言者 S 今後の検討の場でも市民の声がより反映される機会があると良い。
- 発言者 H コンパクト化に伴う余剰地をどのように活用していくかについて、市場との関係性や市民の活用方法も含めて住民参加の中で議論できると良いのではないか。

以上